

2012年度 白梅学園大学大学院博士課程 学位審査報告書

学籍番号： B0H004

氏名： 安永 正史

学位の種類： 博士（子ども学）

学位論文題： 子どもの育ちを支える世代間交流プログラムの開発と効果の検討
—小中学生への絵本の読み聞かせと読み聞かせ指導が
子どもの高齢者観に及ぼす影響に着目して—

論文審査委員： （主査） 小林美由紀
草野 篤子（指導教員）
汐見 稔幸
福丸 由佳
藤原 佳典（東京都健康長寿医療センター研究所）

1. 論文内容の要旨

本博士学位論文は、子どもと高齢者の世代間交流プログラムの導入の効果と課題をわが国の小中学生への絵本の読み聞かせと読み聞かせ指導が子どもの高齢者観に与える影響に着目して明らかにすることを目的とした。

第1章では、少子高齢化、高齢者の現状、家族形態の変化を取り上げ、子どもと高齢者が世代間交流プログラムに参加することへの期待が高まっている背景を明らかにした。次に、国内外における世代間交流の実践、研究を概観し、現在、わが国の世代間交流に関する実践、研究が抱える問題をまとめた。さらに、世代間交流プログラムの評価の際に米国で最も一般的に用いられている高齢者観、高齢者イメージをとりあげ、わが国における先行研究を概説した。最後に、世代間交流プログラムの根拠となる理論を紹介した。

第2章では、米国の世代間交流プログラムのわが国への導入例である“REPRINTS”研究を紹介し、当該プログラムの効果として明らかになっている絵本の読み聞かせによる世代間交流が高齢者と子どもに与える効果を概説した。次に、絵本の読み聞かせによる世代間交流プログラムが子どもの高齢者イメージに与える影響をプログラムの内容との関係から検討を行った調査の結果（研究1）を示し、世代間交流が子どもの高齢者イメージに与える影響は、プログラムの内容・特色と不可分の関係にあることを明らかにした。最後に絵本の読み聞かせが持つ世代間交流プログラムにおける特色について概説した。

第3章では、まず、絵本の読み聞かせの持つ特色を活かした発展プログラムとして開発された「交流授業」を紹介した。「交流授業」とは、絵本の読み聞かせの仕方を高齢者が6年生児童に教え、6年生は高齢者から教えられた読み聞かせの技術を使って1年生に絵本の読み聞かせを行うという連鎖的な世代間交流プログラムである。“REPRINTS”研究における「読み聞かせ」による交流よりも高齢者と児童がさらに交流を深めることができる点を

特色としている。次に、「交流授業」の効果をプログラム参加の6年生児童の高齢者観に着目して行った一連の介入研究（研究2～6）の結果に基づいて、こうした交流の持つ効果と課題を明らかにした。

第4章では、絵本の読み聞かせによる世代間交流プログラムの小学校高学年よりさらに上の学年、すなわち、中学生への展開の可能性を絵本の読み聞かせが実施されている中学校で実施された高齢者イメージの調査結果（研究7）を基に示した。

第5章では全体総括として、従来の「絵本の読み聞かせ」による交流と「読み聞かせの指導」による交流（＝「交流授業」）が子どもに与える効果をまとめ、これらの交流の課題と今後の研究の方向性について展望を述べた。

2. 論文審査の結果の要旨

本論文は、世代間交流プログラムを地域の高齢者による絵本の読み聞かせと読み聞かせ指導を行う“REPRINTS”研究を小学生、中学生に実施し、子どもに与える効果を中心に7つの研究にまとめたものである。“REPRINTS”研究は、世代間交流による高齢者の社会貢献に関する研究で、高齢者や幼児、小学校低学年の児童への効果が認められていたが、これをさらに、高学年用に発達に応えたプログラムとし、その効果について、児童の高齢者に対するイメージ効果、ソーシャル・サポートに与える影響、地域活動参加意識に及ぼす影響について検討されている。審査会では、世代間交流プログラムを双方向的に実践し、その意義を実証的に検討していることを高く評価された。今後、継続性を持って実践し、検討を続けることが可能であるところに世代間交流研究への貢献は大きいと思われる。

1) 第1回審査会：2012年11月29日：審査員のみによる書類審査

世代間交流の実践については、高く評価されたが、先行研究と本研究の意義についての記載を充実させること、統計処理と解釈と考察についての問題点を指摘され、論文の骨組みをしっかりと、総合考察を充実させることを求められた。

2) 第2回審査会：2013年1月17日：プレゼンテーションと修正論文による審査

先行研究との関連や交流授業の内容と意義については改善されていたが、前回修正点としてあげられたことに対する修正が一部不十分で、研究の限界や今後の展望について追加することが求められた。

3) 第3回審査会：2013年2月15日：再修正論文について審査員のみによる書類審査

再修正によって、考察が深められたが、副題についての修正意見が出された。また、世代間交流における本研究の位置づけ、交流授業の内容と位置づけをより明確にすることが求められた。

4) 第4回審査会：2013年2月21日：再々修正論文とプレゼンテーションによる審査

プレゼンテーションによって、研究内容が一層深められたが、資料と論文内容に一部不一致の箇所があることを指摘され、統計の考察の一部に修正を求められた。

5) 第5回審査会：2013年2月23日：公開審査会

指摘されたことの修正・補完がなされていて、プレゼンテーションの内容も改善されわかりやすくなった。一部の用語の統一を行うことが求められたが、それを反映させた最終版の提出を持って、合格とされた。